

平成 29 年度

全国体力・運動能力、運動習慣等調査

北海道版結果報告書

北海道教育委員会

平成 30 年 3 月

【はじめに】

平成 29 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査を詳細に分析し、北海道版結果報告書として取りまとめました。

本報告書は、実技に関する調査と質問紙調査の結果を多角的な視点から分析し、成果と課題を示すとともに、教育委員会や学校等における体力向上の取組の参考となるよう、課題解決に向けた具体的な実践例を掲載しています。

本道の状況は、全国と比較して、各種目の得点を合計した体力合計点の差が縮まるなど改善の傾向が見られますが、体育授業において設定した目標や振り返りが子どもたちに十分意識されていないことや、運動習慣が十分身に付いていないなどの状況が見られることから、子どもたちが運動やスポーツの楽しさを味わい、自分の成長を実感したり、達成感を得たりすることができる体育授業の充実や、子どもたちが継続的に運動に取り組むことができる機会の創出など、更なる授業改善と運動習慣の定着に向けた取組が必要であると考えています。

道教委としては、本道の子どもたち一人一人に、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育むとともに、引き続き、学校、家庭、地域、行政が一体となった体力向上に向けた取組を推進してまいります。

教育関係者や保護者の方々をはじめ、広く道民の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成 30 年 3 月

北海道教育委員会

【目次】

I	結果のポイント	
1	全道の概要	1
2	管内の概要	3
II	全道の状況	
1	実技に関する調査	5
(1)	小学校男子	
(2)	小学校女子	
(3)	中学校男子	
(4)	中学校女子	
2	体格と肥満度に関する調査	9
3	児童生徒質問紙調査	11
(1)	運動習慣等の状況	
(2)	体育授業の状況	
(3)	体育授業以外での運動やスポーツの実施時間	
(4)	達成感、挑戦、自己肯定感	
4	学校質問紙調査	26
(1)	体力向上の取組状況	
(2)	平成 28 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえた取組の状況	
(3)	体育授業の状況	
(4)	新体力テストの実施状況	
5	体力合計点総合評価の児童生徒の割合	31
6	都市階級区分ごとの児童生徒の体力の状況	33
7	都市階級区分ごとの質問紙調査の状況	37
8	体力合計点のばらつき	41
(1)	管内の体力合計点のばらつき	
(2)	市町村の体力合計点のばらつき	
(3)	全道の学校の体力合計点のばらつき	
9	クロス集計等による結果の分析	44
(1)	小学校	
(2)	中学校	
III	他県の状況	
1	福井県との比較	50
2	秋田県との比較	52
3	広島県との比較	54
	【参考】継続的に成果を上げている他県教育委員会における体力向上の取組	56
IV	管内の状況	
○	各管内の状況	57
V	市町村の状況	
○	市町村の状況及び体力向上策	113
VI	北海道の体力向上関連の取組の検証及び改善に向けた取組	
1	成果と課題	464
2	小学校における取組の方向性	465
3	中学校における取組の方向性	468
4	学校間の連携による体力向上に向けた取組の方向性	470
5	平成 29 年度の道教委の体力向上に関する取組	471
6	参考資料	472

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

(2) 調査の対象

- 小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年、義務教育学校前期課程第5学年の全児童
- 中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年、義務教育学校後期課程第2学年の全生徒

(3) 調査の内容

- ① 児童生徒に対する調査
 - ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン（中学校は20mシャトルランに替えて持久走も可）、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ（中学校はハンドボール投げ）
 - イ 質問紙調査
- ② 学校に対する質問紙調査
- ③ 教育委員会に対する質問紙調査

(4) 調査の方法

悉皆調査

(5) 調査の実施期間

平成29年4月から平成29年7月末までの期間で実施

(6) 実施学校数・児童生徒数（公立学校）

北海道	調査対象者が在籍する学校の校数（校）	実施校数（校）	児童生徒数（人）	全国	調査対象者が在籍する学校の校数（校）	実施校数（校）	児童生徒数（人）
小学校	1,043	1,043	41,039	小学校	20,122	19,889	1,050,062
中学校	623	623	40,550	中学校	10,200	9,941	961,769
合計	1,666	1,666	81,589	合計	30,322	29,830	2,011,831

※スポーツ庁の依頼により、調査対象児童生徒が在籍しない学校で、学校質問紙調査に協力した学校数

北海道	調査対象者が在籍しない学校の校数（校）	学校質問紙に協力した学校の校数（校）
小学校	50	31
中学校	15	8
合計	65	39

【用語説明】

用語	解説
T得点	全国平均値に対する相対的位置を示し、単位や標準偏差が異なる調査結果を比較する。（全国平均を50とした時の数値）
体力合計点	種目によって異なる単位の測定値を、単位が共通な10点満点の「ものさし（尺度）」に変換し、8種目の結果を合計した得点（80点満点）
総合評価	体力合計点の高い順にA～Eの5段階で評価したもの。（項目別得点表及び総合評価基準表はP475を参照）

【留意事項】

- 本資料において、北海道及び全国の状況は、いずれも公立学校について示したものである。
- 本調査の集計・分析に当たっては、国において、実技調査、児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査の回答の精査を行い、性別不明など一部のデータは集計・分析の対象外としている。
- 児童生徒質問紙と学校質問紙のレーダーチャートは、全国の割合を100とした場合の北海道の値（チャート指数：北海道の割合÷全国の割合×100）で示している。
- 平成25年度～29年度は悉皆調査であるが、24年度は抽出調査であるため、単純な比較はできないことに留意する必要がある。
- 本調査結果は、児童生徒の体力・運動能力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることに留意する必要がある。